

計画の進行管理及び評価にあたって

全国的に少子高齢化が進む中、子育ての不安や孤立を抱える保護者の増加、家庭や地域の養育力の低下、子どもの育ちの保障の充実など、さまざまな課題への対応が求められており、子育て中の親や子どもを支援する次世代育成に関する施策の充実を図ることが急務となっています。

鈴鹿市では、このような課題に対応し、施策の充実を図り、子どもを持ちたい人が安心して子どもを生み育てることができるまちづくりを行うため、鈴鹿市次世代育成支援行動計画（後期計画）を策定しました。

この計画は平成22年度から26年度までの5年間を期間とするもので、鈴鹿市における子どもを取り巻くさまざまな分野の施策を総合的に推進していくために策定されたものです。

本市ではこの計画の適正な推進を図るため、当該計画の進行管理及び評価を客観的な第三者的見地から行うこととし、市内NPO法人への委託方式を採用しました。

この計画に定める施策目標の現状と課題を踏まえ、より実効性のあるものとするため、特に優先度が高いと判断される施策から、その方向性を示すことにより、当該計画の進行管理及び評価を行うこととしました。

これは、民間の発想を活かし、またNPO法人の特性を活かせる業務として、費用対効果も考えた効果的・効率的な進行管理及び評価を実施し、市民のニーズに的確に対応したサービスの提供を目指すものです。

今回「施策の方向性」として提案のあった内容については、その詳細も確認の上、今後検討していくこととなりますが、いずれにしても、次世代育成支援のさらなる推進につなげていきたいと考えています。

鈴鹿市保健福祉部児童保育課

＜鈴鹿市次世代育成支援行動計画（後期計画）進行管理及び評価業務委託事業＞

鈴鹿市の次世代育成支援に関する調査実績報告書



2014年3月

特定非営利活動法人 21世紀の子育てを考える会. 鈴鹿

<目 次>

I. 目的	1
II. 調査概要	
1. 意見交換会	2
2. アンケート調査	2
3. 平成24年度行政評価に関する調査	2
4. ワークライフバランスに関する講演会	2
III. 調査結果	
1. 意見交換会結果	3
2. アンケート調査結果	4
3. 平成24年度行政評価に関する調査結果	18
4. ワークライフバランスに関する講演会結果	20
IV. まとめ	21
V. 施策の方向性	23
VI. 資料	24

I. 目的

「仕事と子育てが両立しやすいと感じられる鈴鹿市」の実現に向けて

鈴鹿市においては「鈴鹿市次世代育成支援行動計画（後期計画）」が平成22年度から5か年計画でスタートした。この行動計画は、子どもや子育て家庭などを対象に社会全体で次世代をどのように育てていくのかという社会全体の方向性を定めたものであり、平成17年～平成21年の行動計画（前期）の取り組み結果について評価し、検証した上で策定されたものである。

「特定非営利活動法人 21世紀の子育てを考える会 鈴鹿」は、この新たに策定された行動計画（後期）が市民のニーズに合致しているかなど、市民の立場から進捗状況の評価するための事業を受託し、平成22年度、23年度、そして24年度と調査報告書をまとめ、施策の方向性を示した。

今年度は、第4段階として、これまでの調査結果を基に関係者による意見交換会を実施するとともに、鈴鹿市における現状を把握するために、平成23年度の調査結果を基にして子育てしながら働く母親を中心にした保護者の「ワークライフバランス」に関する意識調査及び鈴鹿市における平成24年度の行政評価を調査した。その上で行動計画（後期）あるいは子育てに関わる各種事業について、改善などの必要性が認められればその方向性を示すことにより、本計画の進行管理及び鈴鹿市の子育て支援事業に寄与することを目的とした。

<鈴鹿市のビジョン>

「市民一人ひとりが夢や生きがいをもって安心して暮らせるまち すずか」

(第5次鈴鹿市総合計画より)



成果指標

● 「子育てが楽しいと感じられる鈴鹿市」

■ 子育ての楽しさ

平成16年度	平成20年度	平成26年度
15.5%	19.7%	25.0%

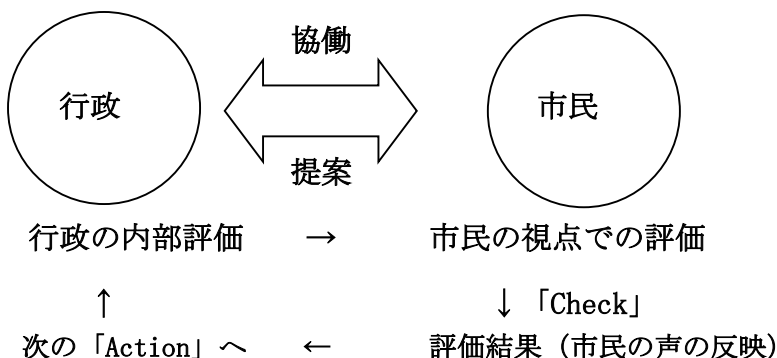
● 「仕事と子育てが両立しやすい鈴鹿市」

■ 仕事と子育ての両立の大変さ

平成16年度	平成20年度	平成26年度
72.2%	75.1%	70.0%

(鈴鹿市次世代育成支援行動計画より)

イメージ



II. 調査概要

1. 意見交換会

- 日 時 : 平成25年8月24日(土)10時～12時 ジェフリーすずか
- 参加者 : 11人(NPO関係者7人・市議会議員2人・行政関係者1人・四日市大学松井教授)

2. アンケート調査

- 調査期間 : 平成25年12月9日(月)～12月20日(金)
- 調査対象者 : 鈴鹿市立保育所(4か所)、放課後児童クラブ(12か所)利用者
- アンケート内容 : 添付資料-1・2参照
- アンケート用紙回収者 : 315人(保育所)・316人(放課後児童クラブ)

3. 平成24年度行政評価に関する調査

- 調査項目
 - ①地域子育て支援拠点事業(地域子育て支援センター事業)(1-2)
 - ②地域子育て支援拠点事業(つどいの広場事業)(1-2)
 - ③ファミリーサポートセンター事業(1-2)
 - ④男女共同参画推進啓発事業(1-3)
 - ⑤通常保育事業(私立保育所運営費補助事業)(2-2)
 - ⑥通常保育事業(公立保育所運営事業)(2-2)
 - ⑦乳幼児健康支援一時預かり事業(2-2)
 - ⑧放課後児童クラブ(2-2)
 - ⑨子ども家庭支援室の体制強化(2-4)
 - ⑩子育て支援総合コーディネート事業(2-2)

4. ワークライフバランスに関する講演会

- 日 時 : 平成26年2月23日(日)13時30分～16時 ジェフリーすずか
- 参加者 : 38人(市民18人・NPO関係者15人・市議会議員4人・行政関係者1人)
- 講 師 : ライフネット生命保険株式会社代表取締役会長兼CEO 出口治明さん

【事業スケジュール】

- ・8月・・・次世代育成支援行動計画に関する研修、意見交換会開催
- ・12月・・・市民アンケート実施
- ・1月・・・市民アンケート結果のまとめ
- ・2月・・・行政評価に関する調査
- ・3月・・・関係部署へのヒアリング・調査結果報告書提出

Ⅲ. 調査結果

1. 意見交換会結果

平成22年及び、23年度・24年度の調査内容の報告をし、平成25年度の事業計画を説明した後、意見交換を実施した。

○意見交換

・子育て支援センターりんりの日曜日利用について、平成24年度報告書の施策の方向性から削除されているがニーズがなくなったということか。ニーズがあるならば、引き続き掲載していくべきではないか。

・病後児保育について、白子に1カ所しかないというのは不便であり、働く保護者にとっては切実な問題である。ファミリーサポートセンターでは、病気の子どもたちは保育できない状況にある。当事者の立場からは、保育所に病後児保育(保健室のような)があり、看護師が常駐して頂ければ大変助かるという声もある。医師会を含め、地域の小児科医との連携が重要ではないか。

・一時預かり保育について、専業主婦での子育てでも気軽に利用できる施設が、児童虐待防止の観点からも必要ではないか。また、再就職したいと思う母親にとっても、再就職活動の際の保育は必要不可欠であり、一時保育のさらなる充実が必要である。

・ワークライフバランスについて、職場の理解が必要でないか。父親も育児に参加ができる労働環境などは、商工会議所をはじめ、企業経営者に理解いただけなければ実現は困難である。今後は企業に対するワークライフバランスに関する研修が重要な鍵となる。

・ファミリーサポートセンターについて、利用料700円が高くて支払えない人もいる。ひとり親や外国人さんなどに対するの支援が必要ではないか。

・社会福祉協議会の役割について、今まで出された課題について、社会福祉協議会として出来る仕事が多々ある。もっと社会福祉協議会との連携を、行政もNPOも市民も取っていかなければ地域福祉・児童福祉の向上に繋がっていかないのではないか。

・鈴鹿子ども支援ネットワークについて、毎月定例会が開かれ情報交換や研修会が開催されていることは素晴らしい取り組みである。市議会の中にも子どもに関するネットワークを作ってはどうか。

・行政とNPOの協働について、特に委託事業について、委託契約金は妥当な金額なのか。安価な金額では市民サービスの低下に繋がる。行政はNPOの善意に甘えているのではないか。NPOが官製のワーキングプワーになってしまう。NPO自身もNPOの課題についてしっかりと考える必要がある。

・市民の満足度をどのように上げていくのか。コストの面でもしっかり考えながら、実施していかなくてはならない。勉強会が必要である。

・子育てを地域全体で支えていこうという意識、「子育ての社会化」をどう実現していくのか。行政・議会・市民が一体となって考えていく機会が必要ではないか。



2. アンケート調査結果

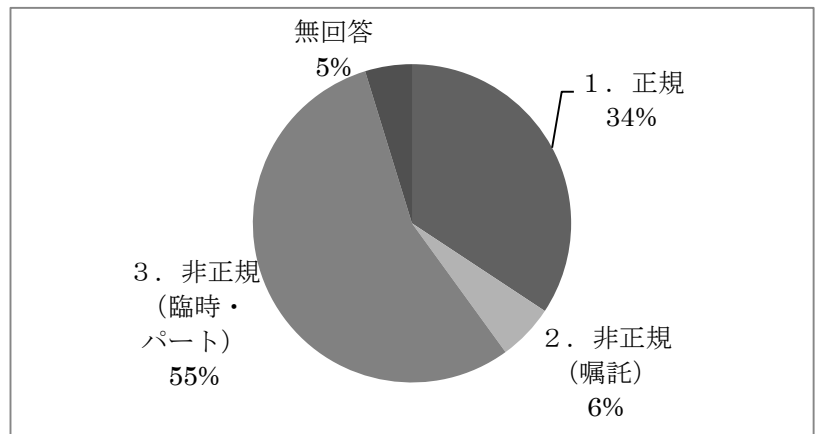
今回の事業の目的である「仕事と子育てが両立しやすい鈴鹿市」の実現に向けて、どのような課題があるのかを把握するため、ワークライフバランス（仕事と家庭の調和）の視点からアンケート調査を実施した。

アンケート調査は、鈴鹿市内の公立保育所4か所及び放課後児童クラブ（学童保育所）12カ所において、働きながら子育てをしている保護者を対象にアンケート用紙を渡し答えていただいた。この際、アンケート項目に答えるだけでなく、自由記述として子育てに関する悩みやあったらいいなと思う事業（サービス）などを記載していただいた。

保育所

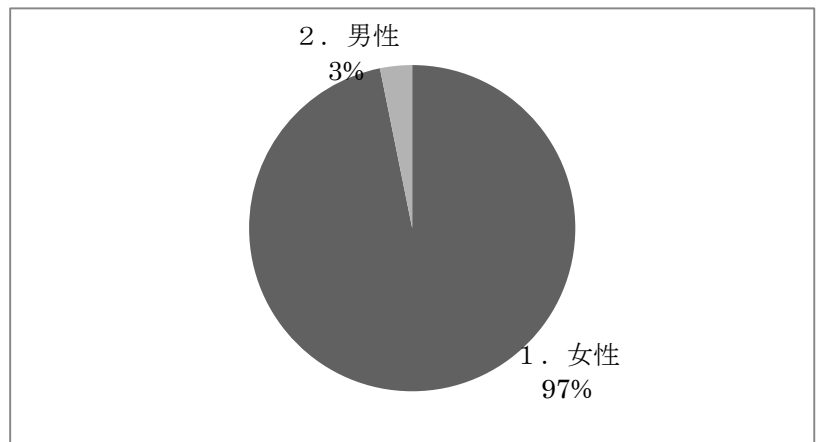
問1. あなたの就業形態

1. 正規	108
2. 非正規（嘱託）	18
3. 非正規（臨時・パート）	174
無回答	15
合計	315



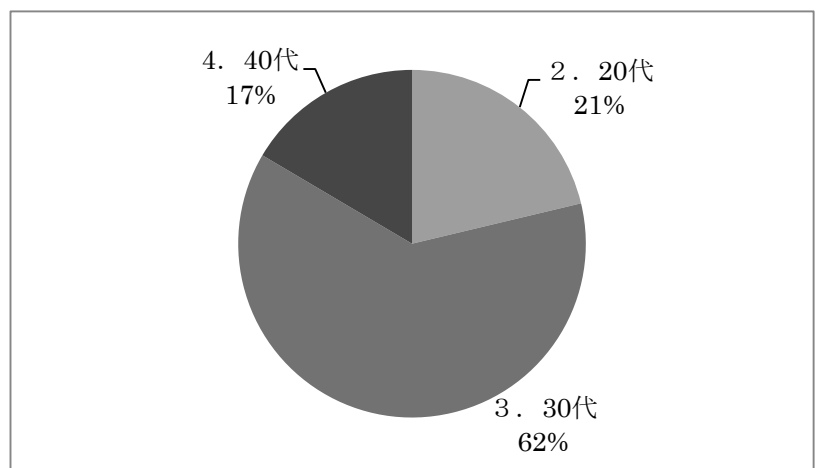
問2. あなたの性別

1. 女性	305
2. 男性	10
無回答	0
合計	315



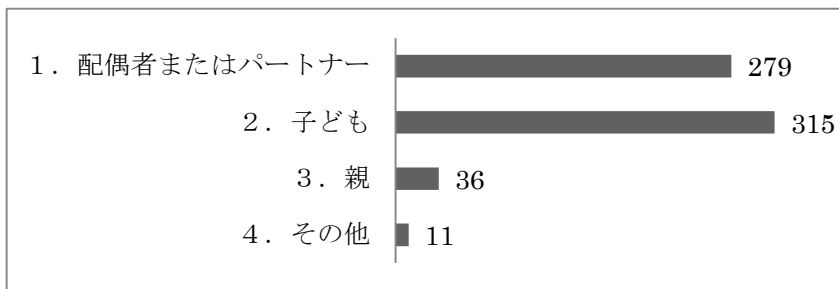
問3. あなたの年代

1. 10代	0
2. 20代	67
3. 30代	196
4. 40代	52
5. 50代	0
6. 60代以上	0
合計	315



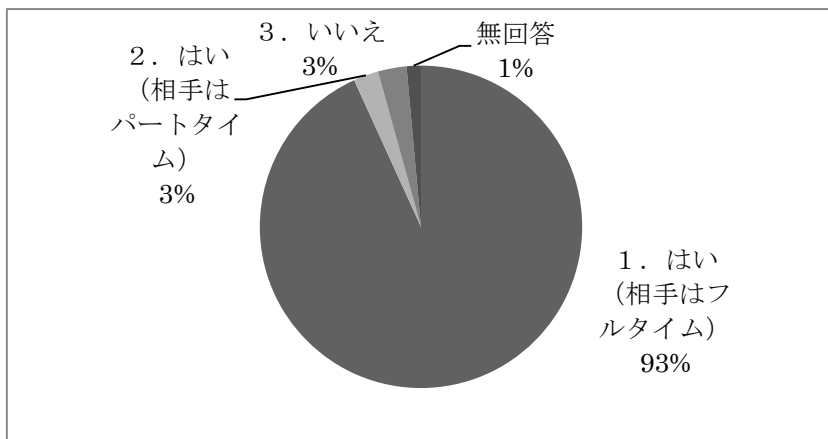
問4. 現在同居している家族構成（あてはまるもの全てに○）

1. 配偶者またはパートナー	279
2. 子ども	315
3. 親	36
4. その他	11



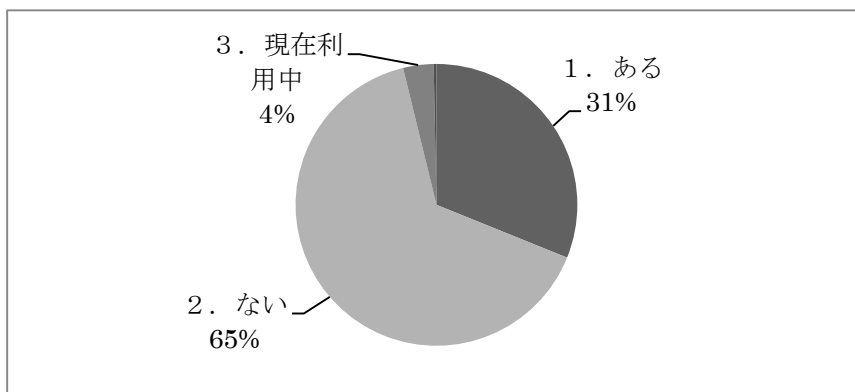
問5. （配偶者またはパートナーがいる場合）共働きですか

1. はい（相手はフルタイム）	260
2. はい（相手はパートタイム）	7
3. いいえ	8
無回答	4
合計	279



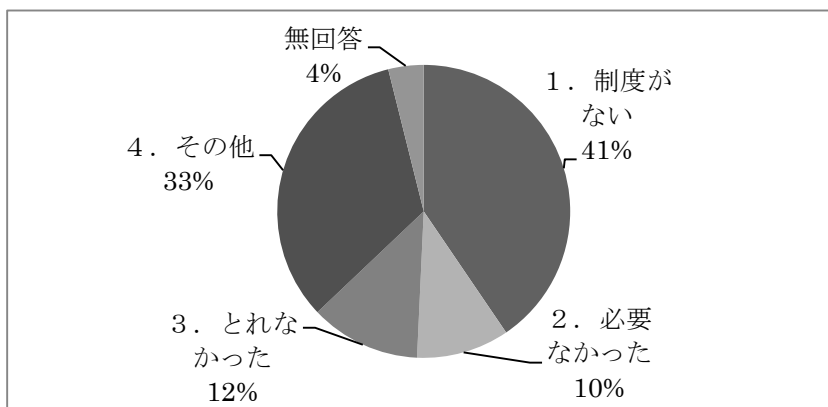
問6. あなたは、育児休業制度を利用したことがありますか

1. ある	98
2. ない	205
3. 現在利用中	11
無回答	1
合計	315



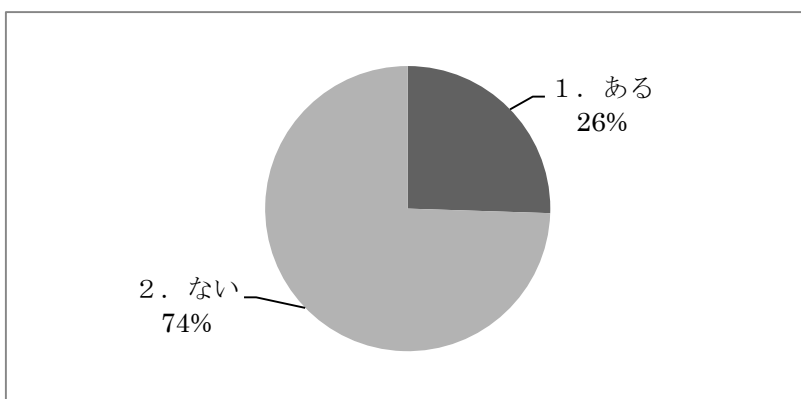
問7. （問6で「2ない」と回答された方に）その理由は何ですか

1. 制度がない	83
2. 必要なかった	21
3. とれなかった	25
4. その他	68
無回答	8
合計	205



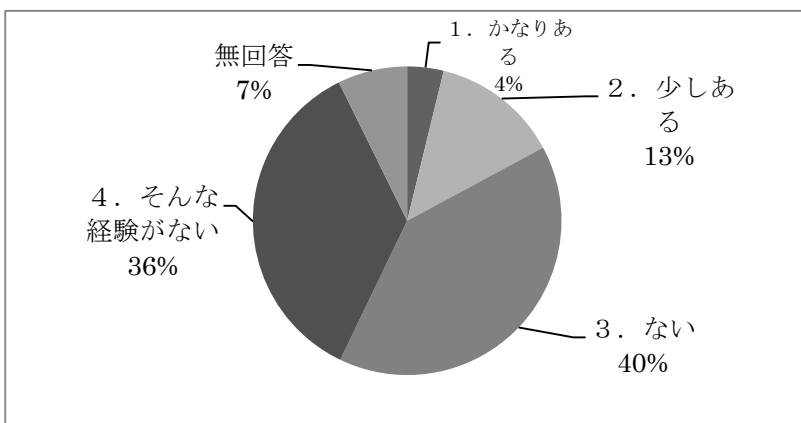
問8. (問6で「1ある」と回答された方に) 育児休暇を取得することでプレッシャーを感じたことがありますか。

1. ある	25
2. ない	73
無回答	0
合計	98



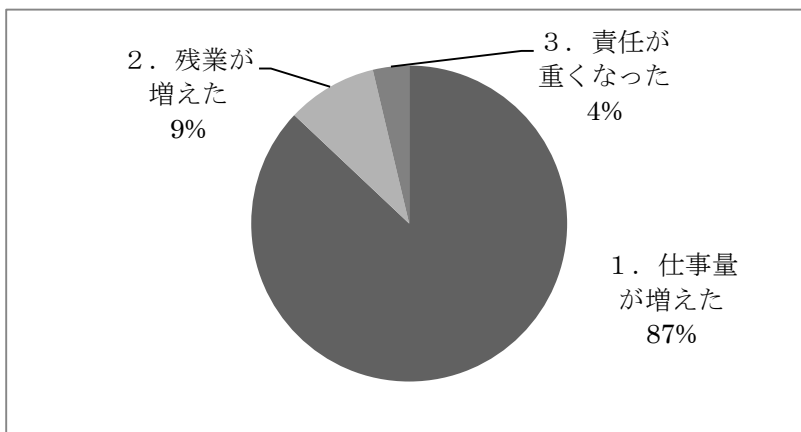
問9. あなたの職場の人が育児休暇を取得したことにより、あなたの仕事上の負担を感じたことがありますか

1. かなりある	12
2. 少しある	42
3. ない	126
4. そんな経験がない	112
無回答	23
合計	315



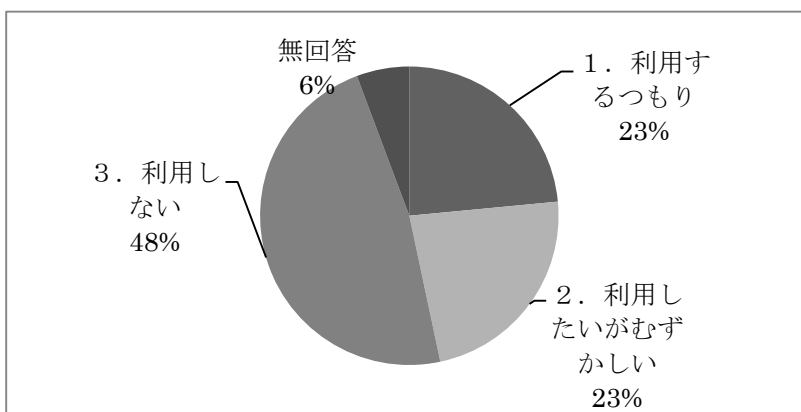
問10. (問9で「1かなりある 2少しある」と回答された方に) その負担はどのようなことでしたか

1. 仕事量が増えた	47
2. 残業が増えた	5
3. 責任が重くなった	2
4. その他	0
無回答	0
合計	54



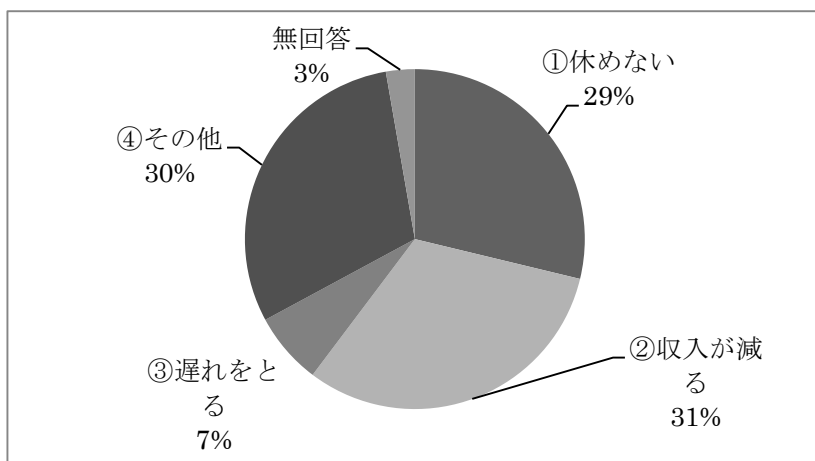
問11. あなたは今後育児休業制度を利用したいと思いますか

1. 利用するつもり	74
2. 利用したいがむずかしい	73
3. 利用しない	150
無回答	18
合計	315



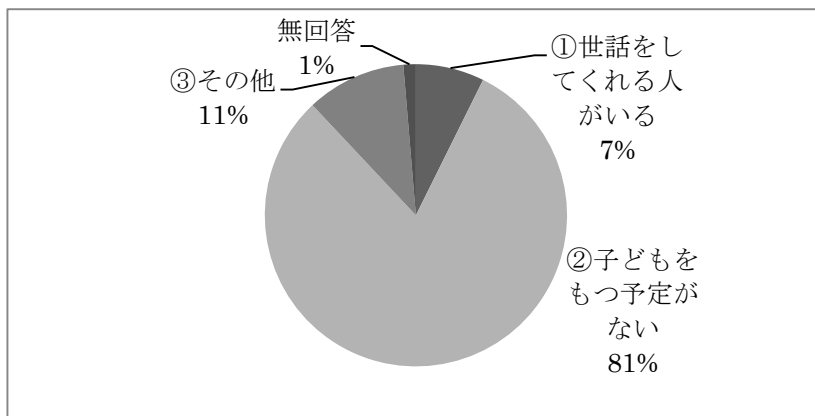
問1 1-2. 「利用したいがむずかしいと思う」人の内訳

① 休めない	21
② 収入が減る	23
③ 遅れをとる	5
④ その他	22
無回答	2
合計	73



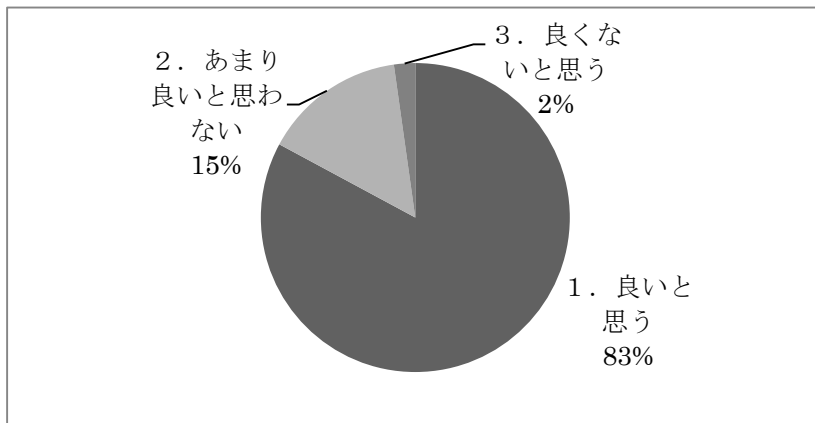
問1 1-3. 「利用しない」人の内訳

① 世話をしてくれる人がいる	11
② 子どもをもつ予定がない	121
③ その他	16
無回答	2
合計	150



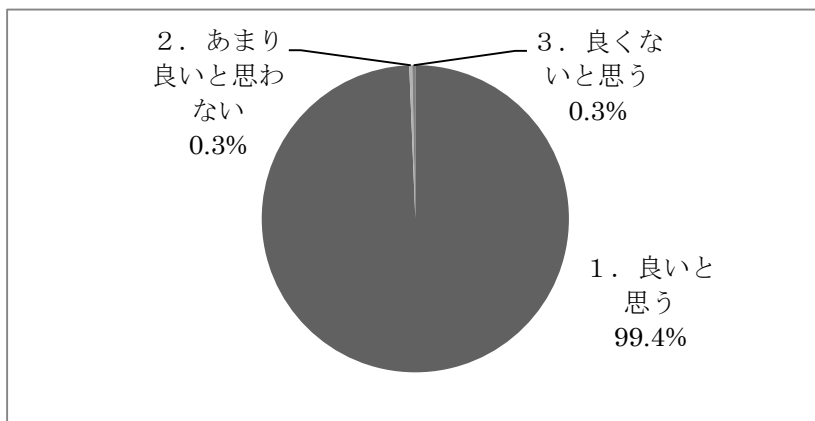
問1 2. 男性が育児休暇を取ることに對してどう思われますか

1. 良いと思う	261
2. あまり良いと思わない	47
3. 良くないと思う	7
無回答	0
合計	315



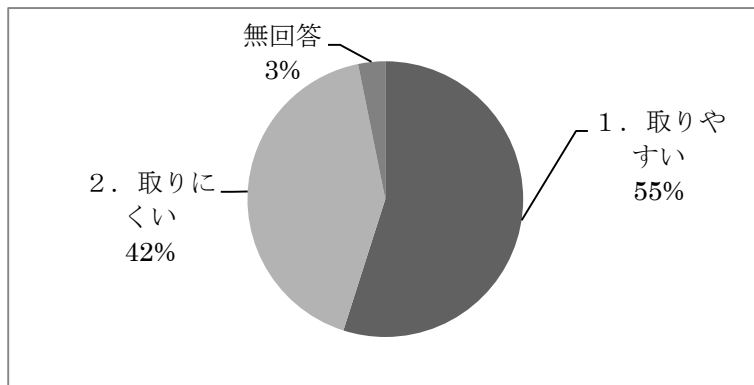
問1 3. 女性が育児休暇を取ることに對してどう思われますか

1. 良いと思う	313
2. あまり良いと思わない	1
3. 良くないと思う	1
無回答	0
合計	315



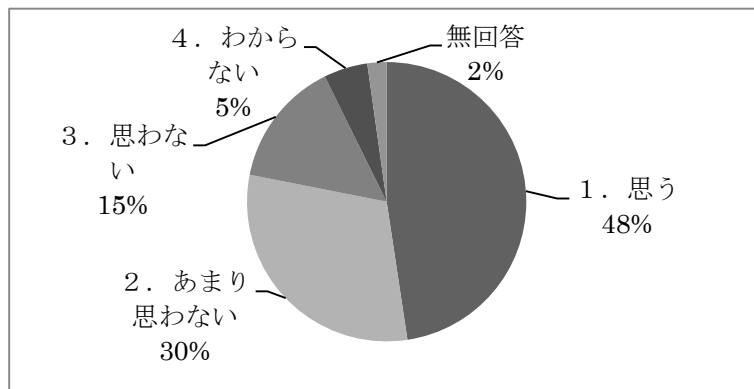
問14. 子どもの病気など何かあったときに休みは取りやすいですか

1. 取りやすい	173
2. 取りにくい	132
無回答	10
合計	315



問15. 育児をしながら働くのに職場の制度・環境は整っていると思いますか

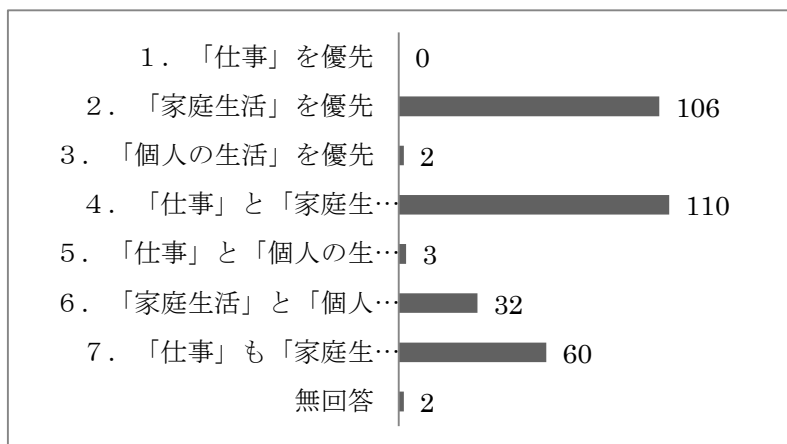
1. 思う	150
2. あまり思わない	96
3. 思わない	46
4. わからない	16
無回答	7
合計	315



問16. あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、最も近いものを1つ選んでください

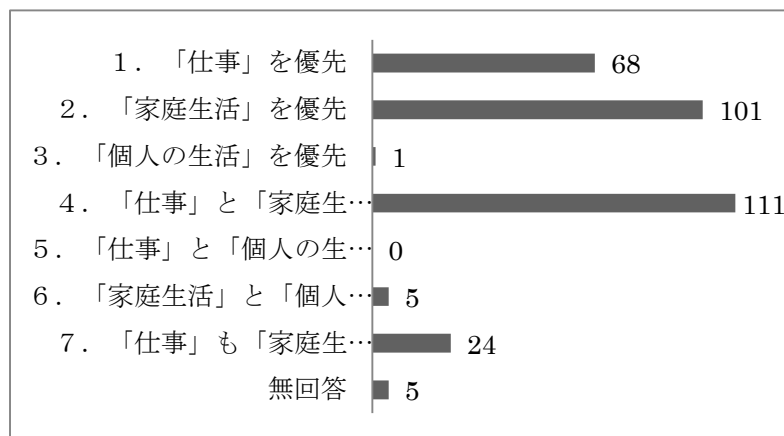
(1) あなたの「理想」はどれですか。最も近いものを1つ選んでください

1. 「仕事」を優先	0
2. 「家庭生活」を優先	106
3. 「個人の生活」を優先	2
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	110
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先	3
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	32
7. 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先	60
無回答	2
合計	315



(2) あなたの「現実 (現状)」はどれですか。最も近いものを1つ選んでください

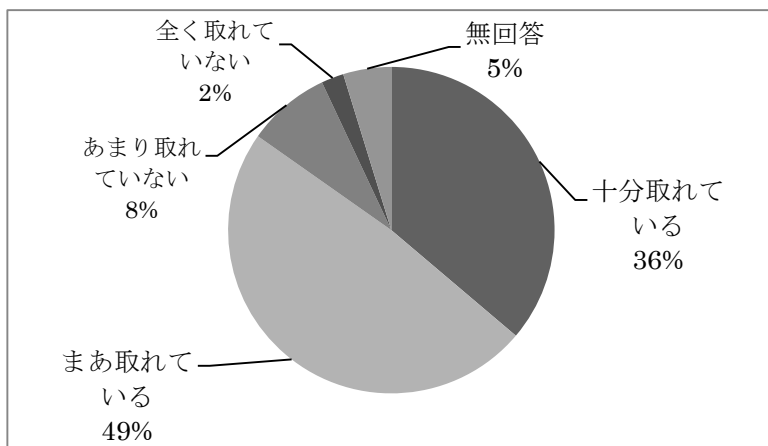
1. 「仕事」を優先	68
2. 「家庭生活」を優先	101
3. 「個人の生活」を優先	1
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	111
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先	0
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	5
7. 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先	24
無回答	5
合計	315



問17. 次のそれぞれの時間は十分に取れていますか。あてはまるところに○をしてください

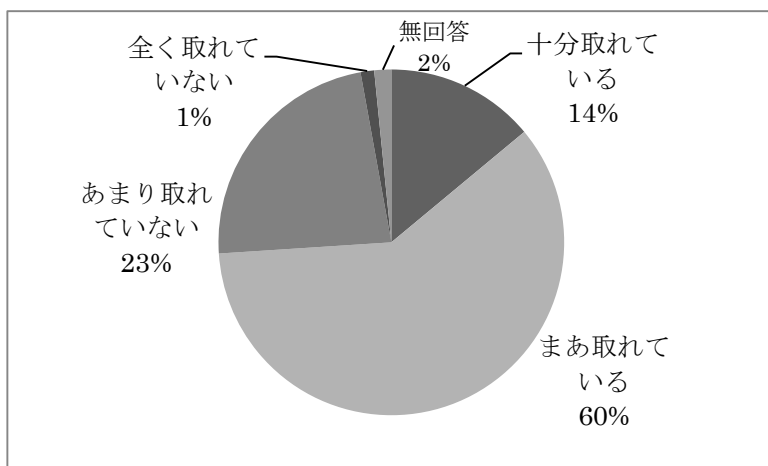
(仕事のための時間)

十分取れている	114
まあ取れている	153
あまり取れていない	26
全く取れていない	7
無回答	15
合計	315



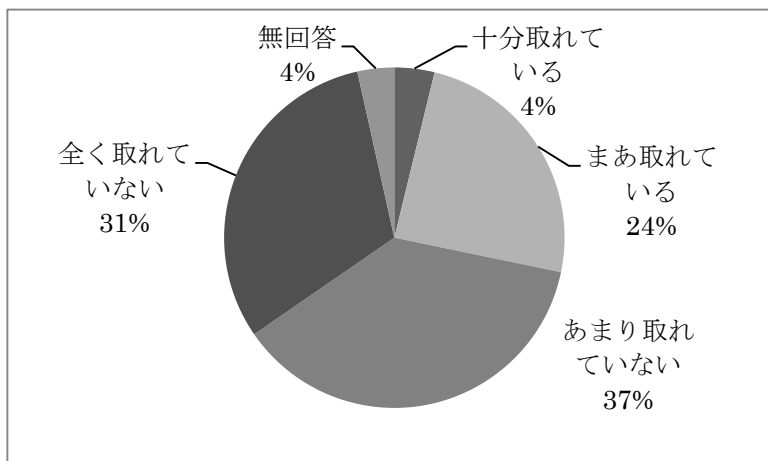
(家庭生活のための時間)

十分取れている	44
まあ取れている	189
あまり取れていない	73
全く取れていない	4
無回答	5
合計	315



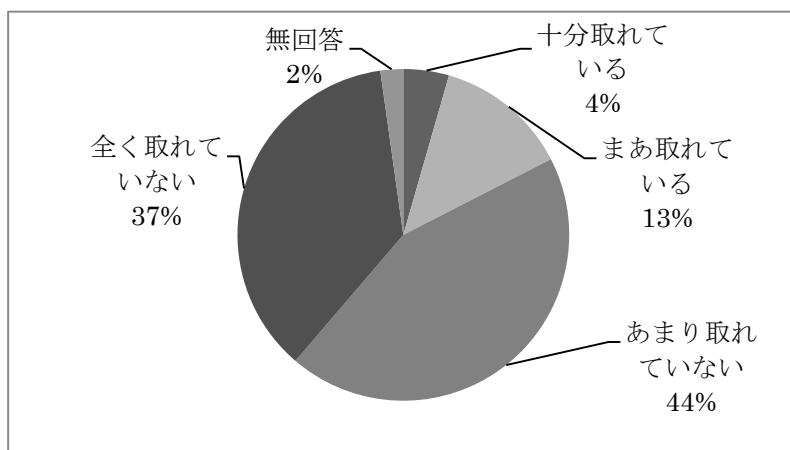
(地域活動に参加する時間)

十分取れている	12
まあ取れている	77
あまり取れていない	117
全く取れていない	98
無回答	11
合計	315



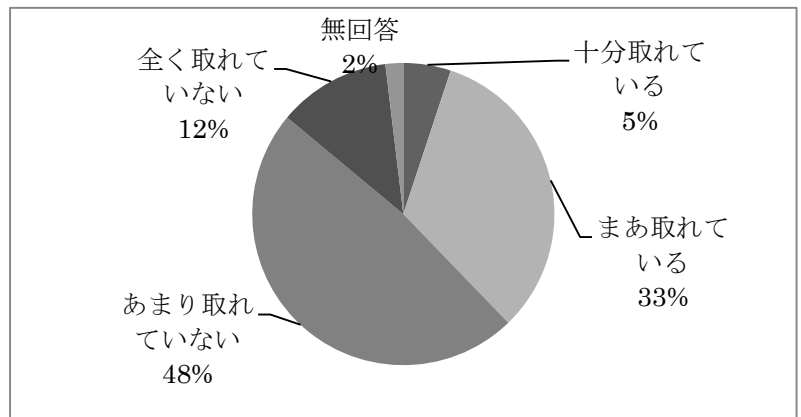
(学習 趣味などの時間)

十分取れている	14
まあ取れている	41
あまり取れていない	138
全く取れていない	115
無回答	7
合計	315



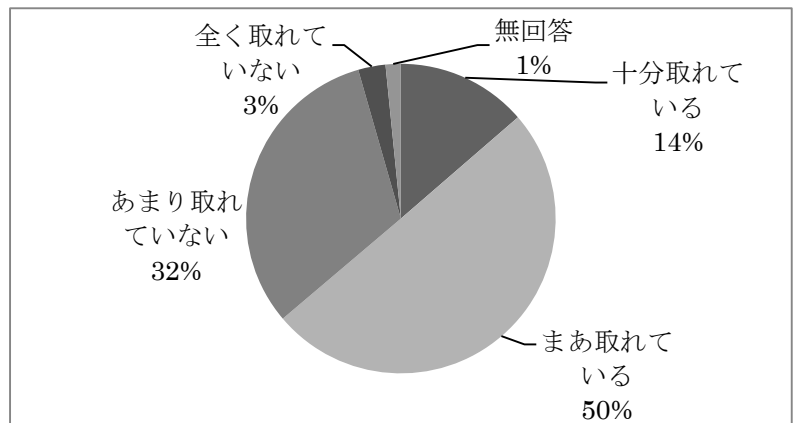
(休養のための時間)

十分取れている	16
まあ取れている	103
あまり取れていない	152
全く取れていない	38
無回答	6
合計	315



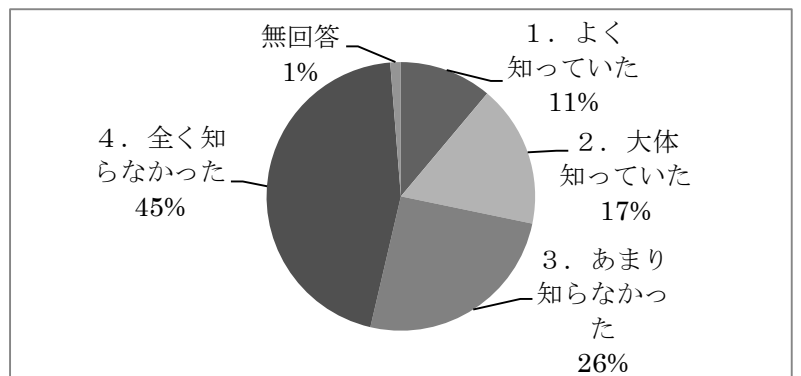
(睡眠のための時間)

十分取れている	43
まあ取れている	158
あまり取れていない	100
全く取れていない	9
無回答	5
合計	315



問18. ワークライフバランス（仕事と家庭の調和）という言葉を知っていましたか

1. よく知っていた	35
2. 大体知っていた	54
3. あまり知らなかった	80
4. 全く知らなかった	142
無回答	4
合計	315



問19. 子育てに関する悩み、あったらいいなと思う事業（サービス）など、ご意見をお聞かせ下さい

(病後児保育について)

- ・子どもが病気になった時が大変。病後児保育施設をもっと増やしてほしい。

(土日祝の保育について)

- ・サービス業のため、土日祝日も出勤になるが、保育施設が少なく困っている。安くて簡単に利用できる場所を作してほしい。

(土日の子育て支援センターの運営について)

- ・働いていると平日に子育て支援センターを利用できない。土日に開設してくれたら子育て情報などの情報収集や子育てについての相談もできる。子どもに対しての虐待など少しは軽減できるのではないかな。

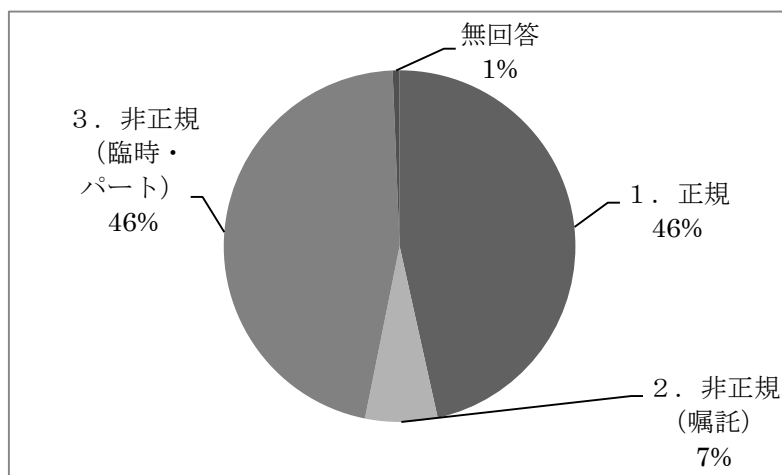
(学童保育について)

- ・保育所に通っている間は夏休みなどの長期休暇も安心して仕事ができるが、小学校に入学したら長期休暇などの保育に不安がある。小学生になっても安心して働き続けられる保育施設が必要。

放課後児童クラブ

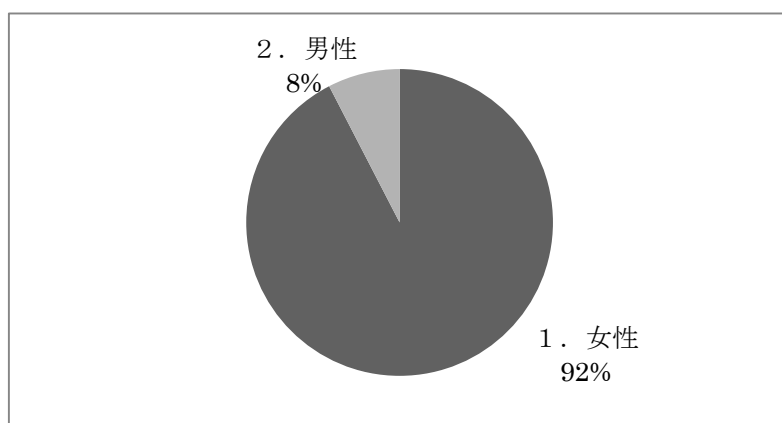
問1. あなたの就業形態

1. 正規	147
2. 非正規 (嘱託)	21
3. 非正規 (臨時・パート)	146
無回答	2
合計	316



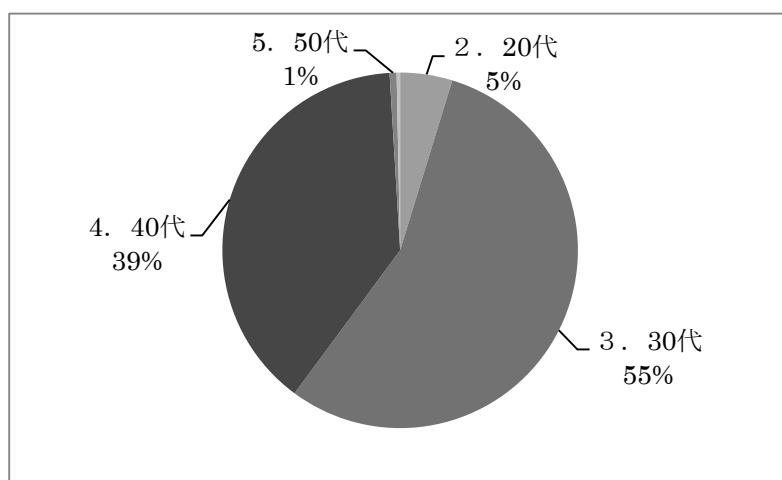
問2. あなたの性別

1. 女性	292
2. 男性	24
無回答	0
合計	316



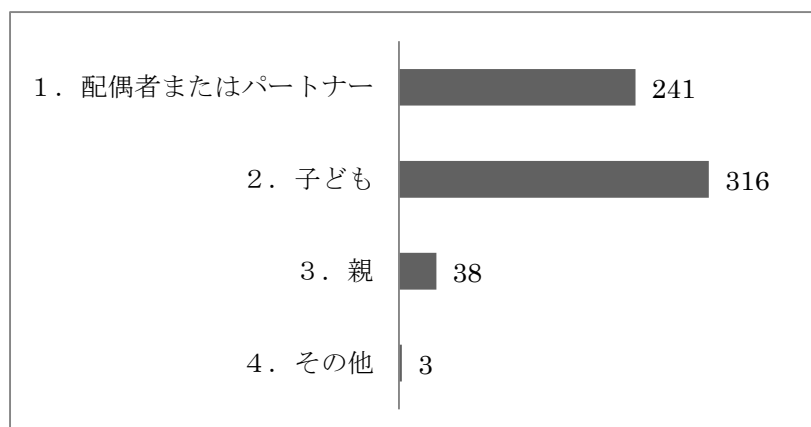
問3. あなたの年代

1. 10代	0
2. 20代	15
3. 30代	175
4. 40代	123
5. 50代	2
6. 60代以上	1
合計	316



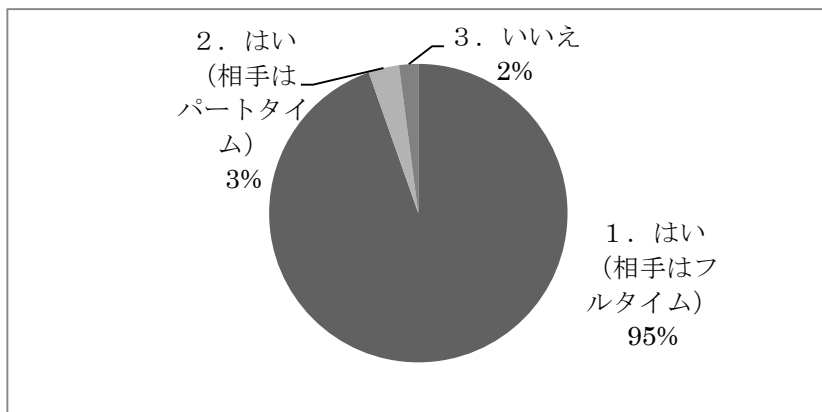
問4. 現在同居している家族構成 (あてはまるもの全てに○)

1. 配偶者またはパートナー	241
2. 子ども	316
3. 親	38
4. その他	3



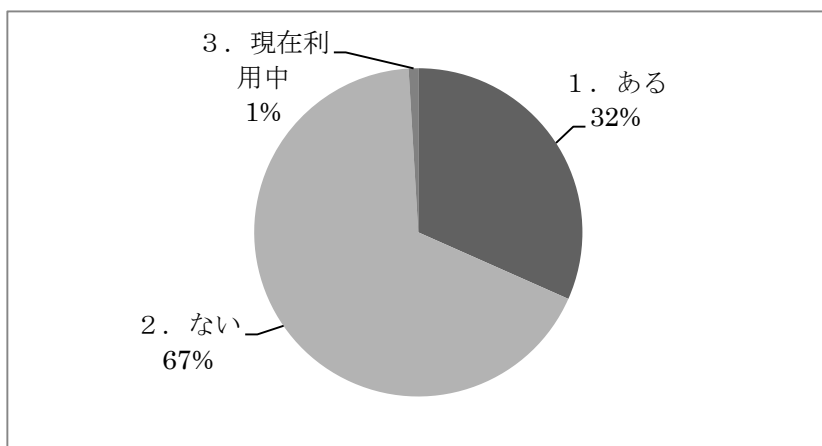
問5. (配偶者またはパートナーがいる場合) 共働きですか.

1. はい (相手はフルタイム)	228
2. はい (相手はパートタイム)	8
3. いいえ	5
無回答	0
合計	241



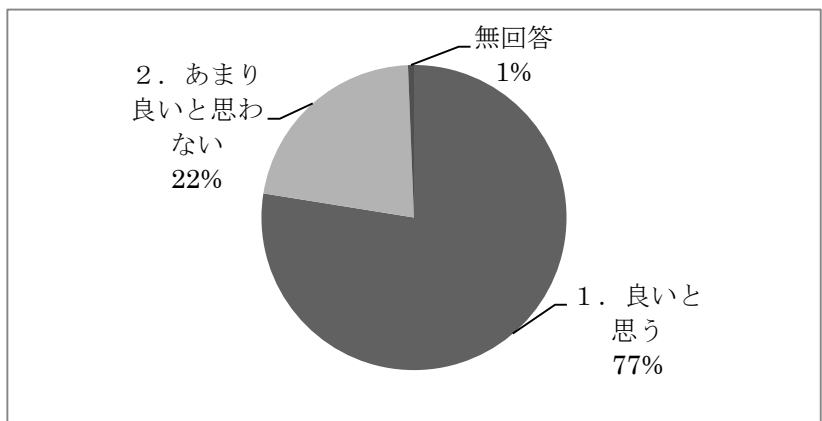
問6. あなたは、育児休業制度を利用したことがありますか

1. ある	100
2. ない	213
3. 現在利用中	3
無回答	0
合計	316



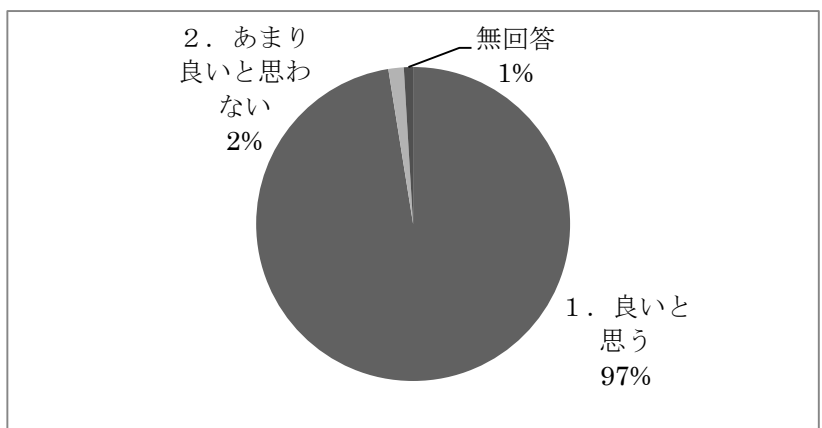
問7. 男性が育児休暇を取ることにに対してどう思われますか

1. 良いと思う	245
2. あまり良いと思わない	69
3. 良くないと思う	0
無回答	2
合計	316



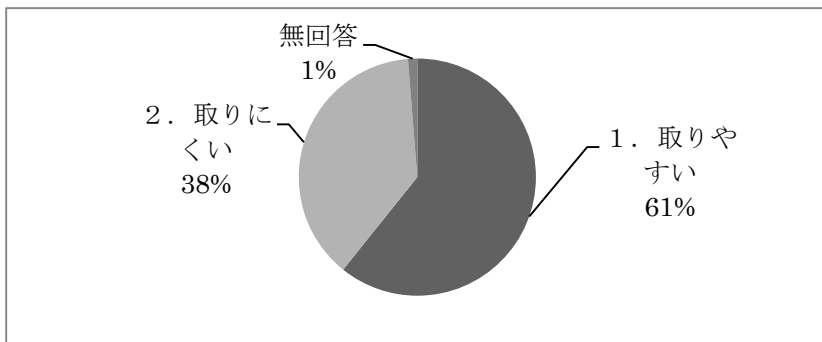
問8. 女性が育児休暇を取ることにに対してどう思われますか

1. 良いと思う	308
2. あまり良いと思わない	5
3. 良くないと思う	0
無回答	3
合計	316



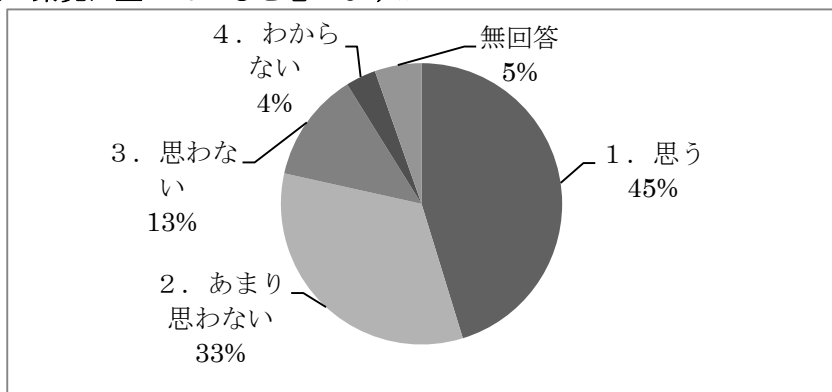
問9. 子どもの病気など何かあったときに休みは取りやすいですか

1. 取りやすい	192
2. 取りにくい	120
無回答	4
合計	316



問10. 育児をしながら働くのに職場の制度・環境は整っていると思いますか

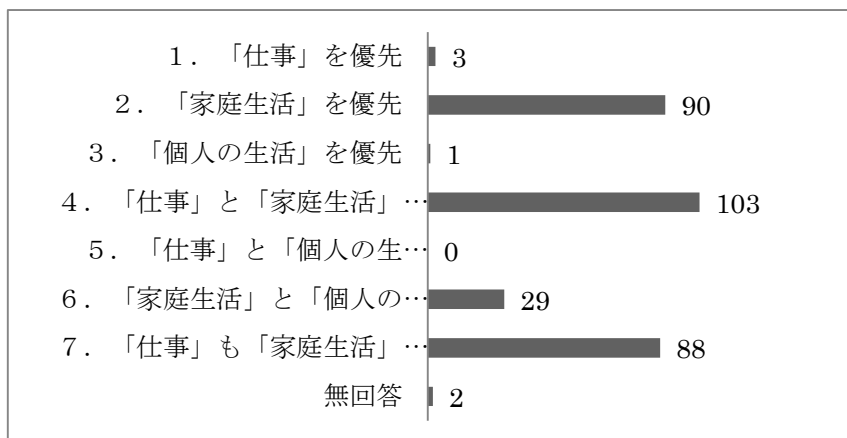
1. 思う	143
2. あまり思わない	105
3. 思わない	40
4. わからない	11
無回答	17
合計	316



問11. あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、最も近いものを1つ選んでください

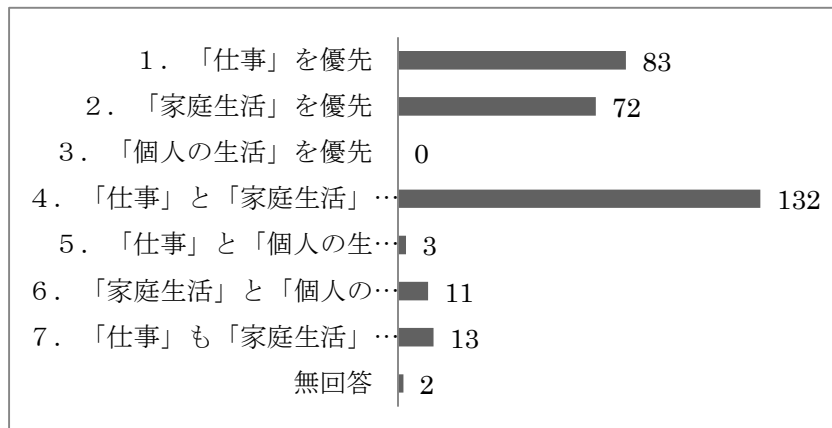
(1) あなたの「理想」はどれですか。最も近いものを1つ選んでください

1. 「仕事」を優先	3
2. 「家庭生活」を優先	90
3. 「個人の生活」を優先	1
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	103
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先	0
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	29
7. 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先	88
無回答	2
合計	316



(2) あなたの「現実 (現状)」はどれですか。最も近いものを1つ選んでください

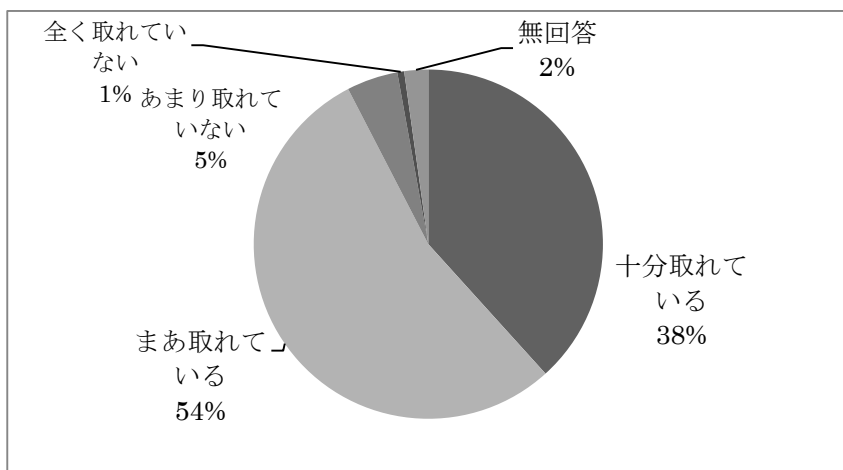
1. 「仕事」を優先	83
2. 「家庭生活」を優先	72
3. 「個人の生活」を優先	0
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	132
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先	3
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	11
7. 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先	13
無回答	2
合計	316



問12. 次のそれぞれの時間は十分に取れていますか。あてはまるところに○をしてください

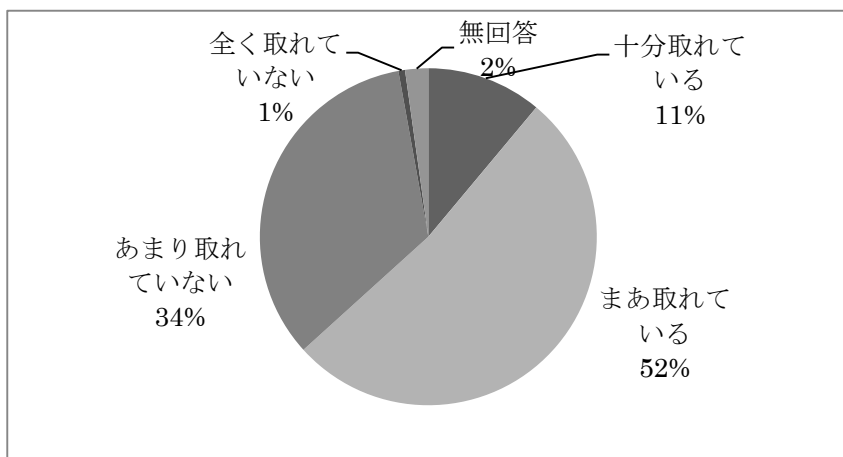
(仕事のための時間)

十分取れている	121
まあ取れている	171
あまり取れていない	15
全く取れていない	2
無回答	7
合計	316



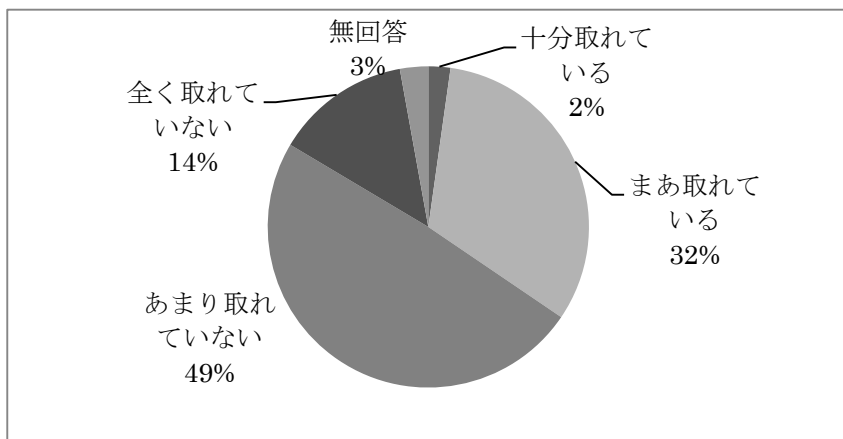
(家庭生活のための時間)

十分取れている	35
まあ取れている	165
あまり取れていない	107
全く取れていない	2
無回答	7
合計	316



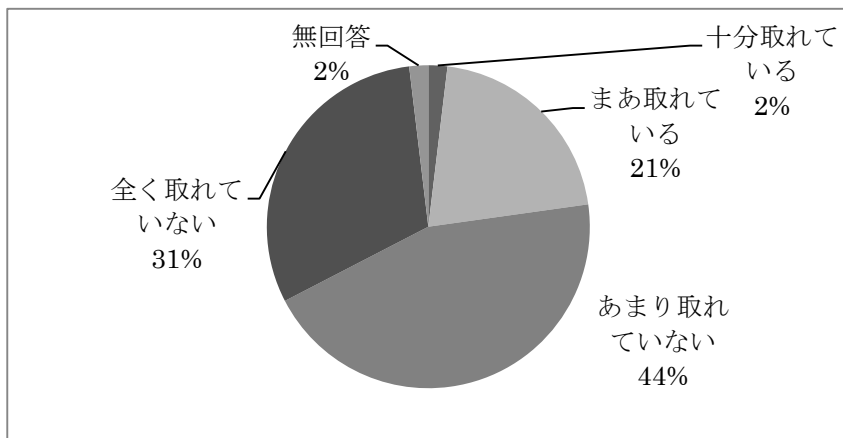
(地域活動に参加する時間)

十分取れている	7
まあ取れている	102
あまり取れていない	155
全く取れていない	43
無回答	9
合計	316



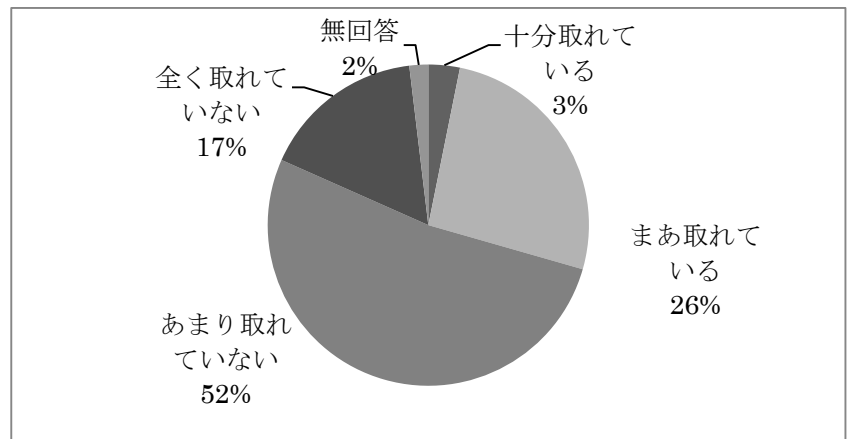
(学習 趣味などの時間)

十分取れている	6
まあ取れている	66
あまり取れていない	141
全く取れていない	97
無回答	6
合計	316



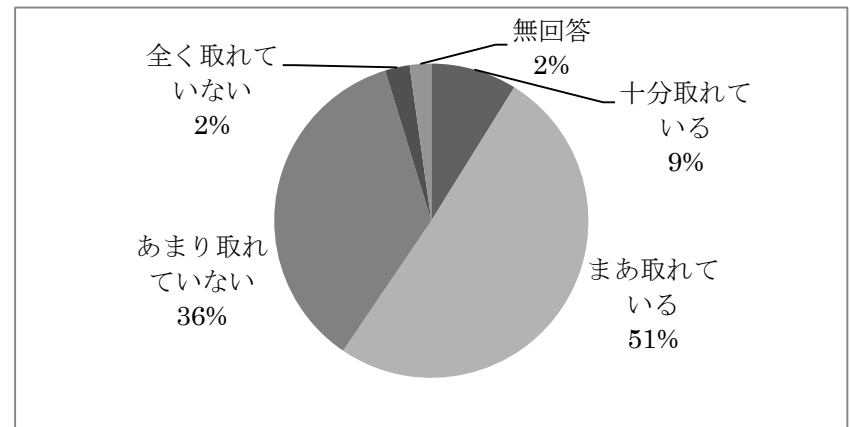
(休養のための時間)

十分取れている	10
まあ取れている	83
あまり取れていない	165
全く取れていない	52
無回答	6
合計	316



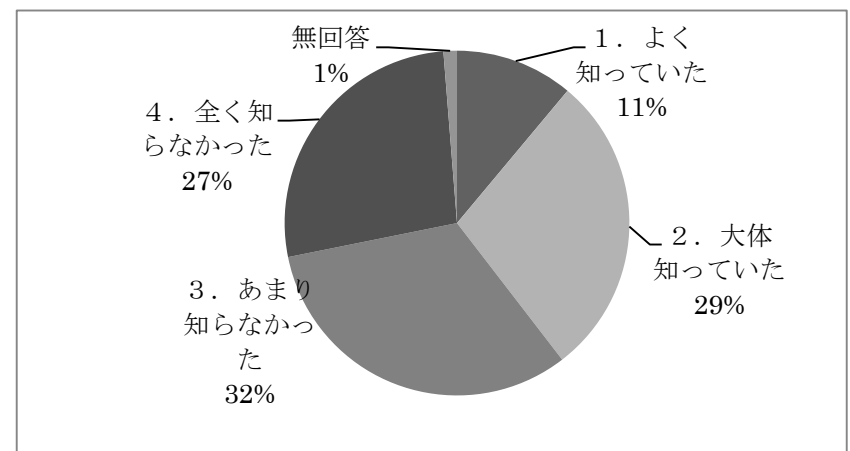
(睡眠のための時間)

十分取れている	28
まあ取れている	160
あまり取れていない	113
全く取れていない	8
無回答	7
合計	316



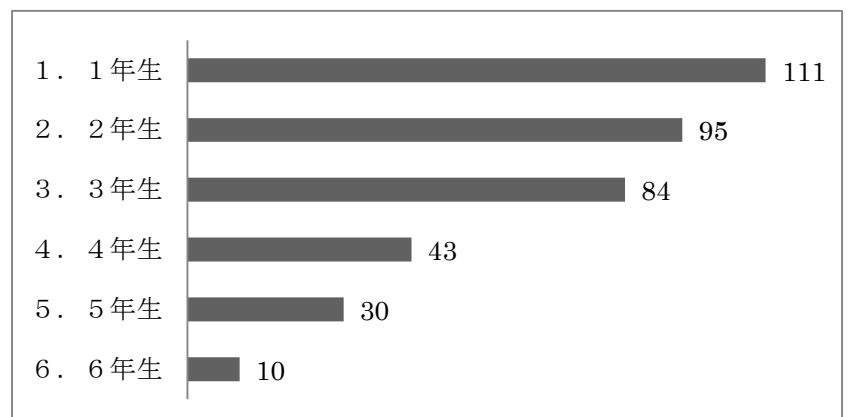
問13. ワークライフバランス (仕事と家庭の調和) という言葉を知っていましたか

1. よく知っていた	35
2. 大体知っていた	90
3. あまり知らなかった	102
4. 全く知らなかった	85
無回答	4
合計	316



問14. 学童保育所を利用している子どもの学年 (あてはまるもの全てに○)

1. 1年生	111
2. 2年生	95
3. 3年生	84
4. 4年生	43
5. 5年生	30
6. 6年生	10

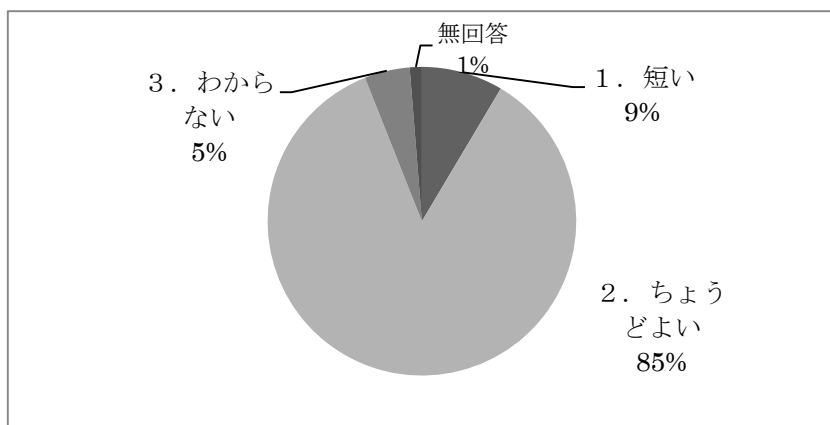


問15. 学童保育所の保育時間についてどう思われますか

1. 短い	27
2. ちょうどよい	270
3. わからない	15
無回答	4
合計	316

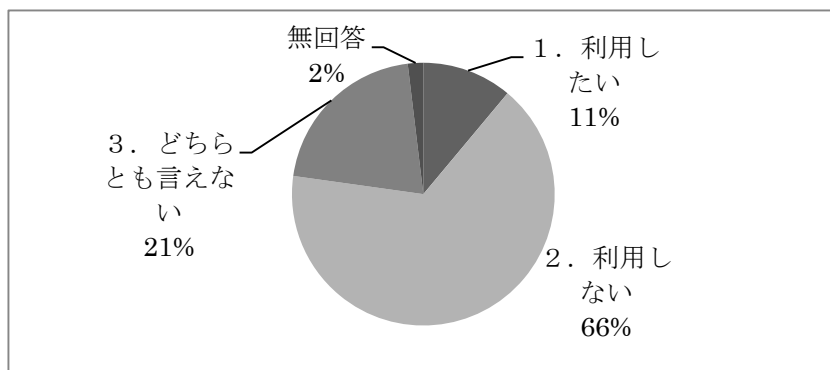
* 19時もしくは20時まで (20名)

* 朝7時から (5名)



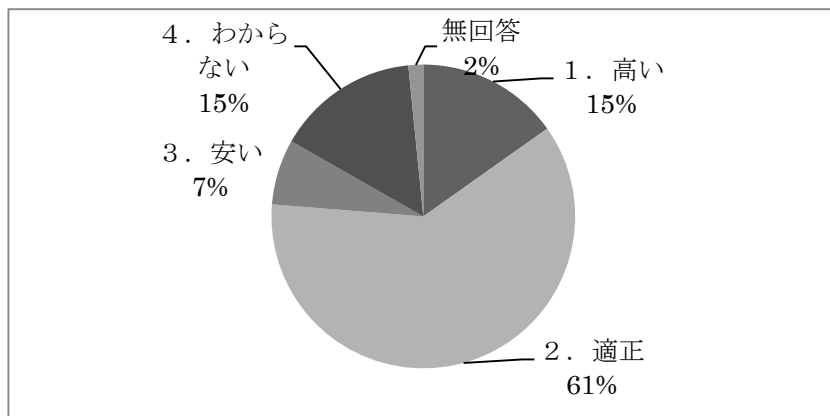
問16. 学童保育所の日曜日開設についてどう思われますか

1. 利用したい	35
2. 利用しない	209
3. どちらとも言えない	66
無回答	6
合計	316



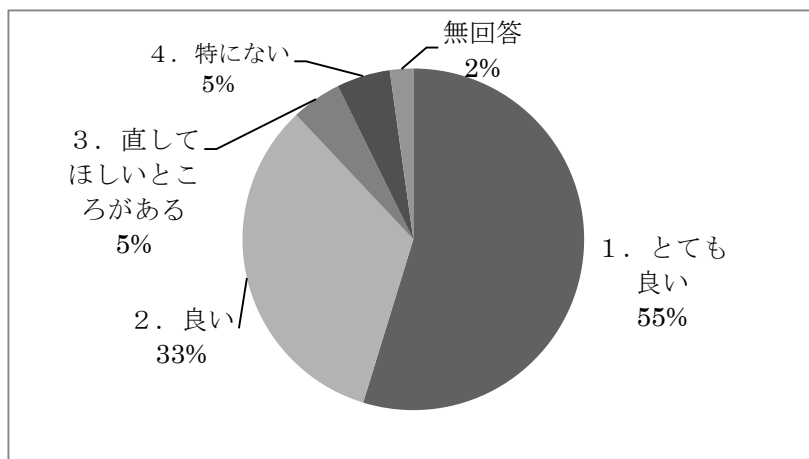
問17. 学童保育所の料金についてどう思われますか

1. 高い	48
2. 適正	193
3. 安い	22
4. わからない	48
無回答	5
合計	316



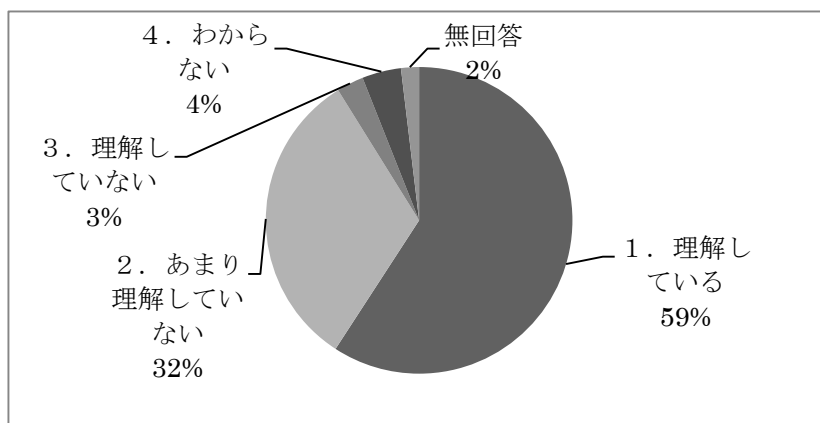
問18. 学童保育所の指導員についてどう思われますか

1. とても良い	173
2. 良い	105
3. 直してほしいところがある	15
4. 特にない	16
無回答	7
合計	316



問19. 学童保育所の運営についての会則を知っていますか

1. 理解している	187
2. あまり理解していない	101
3. 理解していない	9
4. わからない	13
無回答	6
合計	316



問20. 学童保育所について、また、子育てに関する悩み、あったらいいなと思う事業（サービス）など、ご意見をお聞かせ下さい

(学童保育について)

- ・働きながら子育てをする家庭にとって、学童保育は大変助かっています。先生方もしっかりと子どもたちに向き合ってくれているので、安心して働いています。大変感謝しています。
- ・学童保育の運営について、保護者だけでは負担が大きい。働いているから学童保育に預けているのに、学童保育の仕事が重荷になっている。行政が入り、少しでも対策していただければ保護者の負担軽減になる。
- ・長期休暇の時など、有料になってもいいので、お弁当のサービスがあると助かる。
- ・ゴールデンウィークやお盆・お正月などの保育があると助かる。
- ・仕事の関係で朝早く（7時～）に子どもを預かってもらえる学童保育があると大変助かる。

(病後児保育について)

- ・子どもが病気になった時に預かってくれる施設をもっと増やしてほしい。市内に1カ所ではあっても遠くて、利用できない。もっと近くで簡単に利用できる施設がほしい。
- ・学級閉鎖になった際（自分の子どもは元気な場合）、子どもを預かってくれるサービスがあると大変助かる。

(ワークライフバランスについて)

- ・子どもが病気になった時に、気兼ねなく休暇が取れる職場環境が必要。制度があっても、利用しにくい雰囲気があり利用できないケースがある。

(父親の育児参加について)

- ・父親の育児参加が少ない。長時間労働で大変なのは理解できるが、子育ては母親の仕事という意識がどこにあるのではないかな。

(子どもたちについて)

- ・習い事をしている子としていない子とでは、毎日の忙しさが違う。習い事も大切だけど、日々、一緒に遊んで人間関係を学んでいくことは、小学生時代にはもっと大切だと思う。
- ・子ども同士の問題ですが、学童で意地悪をされたが、注意してもらったのか不明。その子の親からも何の連絡もなく、少し不安になっている。
- ・高学年の子が低学年の子に意地悪をして、低学年の子たちが学童に行きたくないとやっている。子どもを安心して預けて働きたいが心配なことが多い。

3. 平成24年度行政評価に関する調査結果

平成22年度から5か年計画でスタートした次世代育成支援行動計画（後期計画）を基本にして、各課で実施された事務事業について平成24年度の事業評価結果が提示されたので、次世代育成に関係するところの庁内評価結果（単位施策評価、事務事業評価、事業実施状況報告書）を基に聴き取り調査を行い市民目線からの評価を行った。

○ 次世代育成支援行動計画実施状況に対する評価結果

番号	行動計画の事業名 (事務事業名)	所管課	進捗達成度評価		本調査による評価の説明
			所管課	本調査	
1-2/1-3	地域子育て支援拠点事業 (地域子育て支援センター事業)	子育て支援課	3	3	従事されている現場の人の努力により、りんりんの利用者は毎年増えている。 ”お父さんも遊ぼうデー”など特別企画についても参加者が増えて好評を得ている。一方、平成23年7月に開所したハーモニーについては評価が行われておらず、実績を確認することができなかった。
1-2/1-3	地域子育て支援拠点事業 (つどいの広場事業)	子育て支援課	3	2	広場を運営している現場の努力により利用者は目標値に対して1.37倍と増加し、利用者には喜ばれているが、行政からの委託費は据え置かれている。 また、平成24年に子育て支援法が改正されたので対応すべき事項があると認識されているが、改善すべき事項や課題を明らかにされていない。
1-2/2-2	ファミリーサポートセンター事業 (子育て支援事業)	子育て支援課	3	4	本事業を担当しているNPO法人の努力により毎年会員の増加が見られ、市民に大きく貢献している。また、NPO法人での課題に対しても担当課として対応されている。 利用者の増加に伴い事業費が増加していることに対して平成26年度から予算の増額を図られるとのこと。
1-3/1-2	男女共同参画推進啓発事業 (男女共同参画プラン進行管理事業)	男女共同参画課	3	3	男女共同参画基本計画に基づいて事業を実施されているが、子育て世代を意識して支援するような事業までは踏み出されていない。施設管理の中で、託児室を使いやすくして子育て中の人々がジェフリーでのイベントに参加しやすい環境作りに努めている。今後、企業に対してワークライフバランスの考え方の重要性を啓発していくとのことで、この点が期待される。

2-2/1-1	通常保育事業 (私立保育所運営費補助事業)	子育て支援課	3	4	私立保育所 30 ヶ所で全体として定員数の 1.03 倍の児童を受け入れ、特に事故なく順調に運営されている。
2-2/1-1	通常保育事業 (公立保育所運営事業)	子育て支援課	3	3	公立保育所は 10 ヶ所あり、多くの障害児の受け入れをされて保育士に負担がかかっているようであるが、特に事故なく順調に運営されている。しかしながら、平成 24 年度事業費では予算額約 5 億円に対し、決算額 3.9 億円で 1.1 億円の差が出ているが何故差額が大きくなったのか評価されていない旨指摘したところ、決算額約 5.2 億円に修正があった。
2-2/2-2	乳幼児健康支援一時預かり事業 (子育て支援事業)	子育て支援課	3	3	このサービスを利用するためには幾つかの制約があり、保護者からは何とかならないかとの声があるが、現行の仕組みを変えることは難しい。利用者数はここ 3 年間横ばい状態でもあり、しばらくは現状通りで事業を継続するのがよいと思われる。
2-2/2-3	放課後児童クラブ (放課後児童クラブ運営補助事業)	子育て支援課	3	4	全ての児童クラブは小学 1 年から 6 年生までが対象とされるようになった。また、開設されていなかった 3 小学校区についても施設の目途がついたこともあり開設に向かって検討されている。各クラブの運営状況については、チェックリストを用いて確認したり、クラブ間の情報交換も図っているとのことでよい環境になってきている。
2-4/1-2	子ども家庭支援室の体制強化 (児童虐待・DV 対策事業総合支援事業)	子育て支援課	3	4	核家族化が進んでいる影響と、相談窓口の体制強化を図られたことにより、相談件数は増加しているとのこと。また、本事業推進のための協議会の体制をピラミッド型に整備して実効性あるものにするとともにネットワーク機能の強化を図られた。しかしながら、相談対応強化のために増員された職員は、臨時職員とのことであるが、このことが評価シートで投入コストに反映されていない。
2-7/2-2	子育て支援総合コーディネート事業 (子育て支援事業)	子育て支援課	3	3	出前保育、子育て支援セミナーの開催等を計画通りに実施された。これらのことは市民にとってはすべて重要な情報であり、今後も引き続き継続されることを期待する。

※評価の指標：1：遅れている 2：やや遅れている 3：計画通り 4：ほぼ達成 5：達成

※関係部署への聴き取り調査・男女共同参画課 2014 年 3 月 7 日（金）・子育て支援課 2014 年 3 月 7 日（金）

4. ワークライフバランスに関する講演会結果

「仕事と子育てが両立しやすいと感じられる鈴鹿市」の実現に向けて必要な「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」についての講演会及び意見交換会を行った。

* 「仕事と生活の調和（定義）」とは、

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」（内閣府 HP より）

○講演会

「21世紀の子育て～ライフワークバランスについて～」

講師：ライフネット生命保険株式会社 代表取締役会長兼 CEO 出口治明さん

- ・ 生きること、働くこと・・・人間は動物である。食べて、寝て、そして、子どもを育てる。次の世代へより良い社会を手渡していくこと。
- ・ ライフとワーク・・・24時間×365日＝8760時間 VS 2000時間（労働時間）
ライフ：ワーク≒ 7：3 もしくは 8：2
- ・ わが国の生産性・・・生産性の低い、長時間労働の実態 → 改善すべき労働体制
- ・ 子育てが女性の仕事になってしまうことはいけない。男女共に子育てを担う。
- ・ 自分の頭で考え、より良い社会を作っていくために行動していくことが重要。「みんなで早く帰る運動」など。

○意見交換会

コーディネーター：四日市大学総合政策学部教授 松井真理子さん

- ・ 女性の社会進出に必要なことは何か・・・子育てをしながら働く女性に必要な不可欠な保育サービスなど子育て世帯に必要な制度を充実させる必要がある。フランスの制度を見習うべき。その前に、ベビーカーを押してまちを歩いてみる必要がある。すると、どれだけ大変かが理解できるはず。
- ・ 制度を充実させていくためには何が必要か・・・当事者である女性が声を上げることが大切。選挙に行くことも重要。



IV まとめ

平成22年度から5か年計画でスタートした「鈴鹿市次世代育成支援行動計画（後期計画）」を実効性あるものとするため、市民の視点に立って進捗状況を評価し、改善に向けた内容をまとめることが必要となる。

平成22年度、23年度、そして24年度に引き続き、この事業の第4段階として、これまでの調査報告書を基に次世代育成支援についての意見交換会を実施し、次に、鈴鹿市における現状を把握するために、働きながら子育てをする母親を中心とした保護者へのアンケート調査（意識調査：今年度は「ワークライフバランス」に関する）を行うとともに、「ワークライフバランス」に関する講演会を実施した。また、行政による事務事業評価も評価し、これらを次のとおりまとめた。

1. 意見交換会

- (1) 「仕事と子育てが両立しやすいと感じられる鈴鹿市」の実現に向けて、働きながら子育てをする保護者への支援（特に病後児保育）は必要不可欠であり、「ワークライフバランス」の考え方の普及・啓発を積極的に行う必要がある。
- (2) 次世代育成支援・子育て支援は、社会全体で子育てを応援していくこと＝「子育ての社会化」を前提としているが、まだまだ個人の問題と捉えられている。行政・社会福祉協議会・企業・市議会・NPO・市民といった多様な主体がそれぞれの立場でどのような支援ができるのか。熟議を重ねながら、「子育ての社会化」を進めていくことが重要である。

2. アンケート調査

- (1) アンケート調査を実施した結果、保育所での回答者は女性が305名（97%）、放課後児童クラブでの回答者は女性が292名（92%）と母親の声が圧倒的に多く、一昨年度のアンケート調査と同様に、男女共同参画でもある子育てについて、父親（男性）の声がなかなか聞こえてこないという結果となった。ワークライフバランスの観点からも、子育て中の父親の声を把握し、行動計画に反映させていくことが課題となる。
- (2) ワークライフバランスという言葉について、「全く知らなかった」と回答された方が、保育所では142名（45%）、放課後児童クラブでは85名（27%）という結果であった。今後は、企業（経営者）に対して、また市民に対して、商工会議所と連携しながらワークライフバランスの講演会や研修などの事業を実施していくことが重要である。
- (3) 自由記述の中で、特に多くの意見・要望として出された主なニーズとしては、①病児・病後児保育について。②土日祝の休日保育について。③放課後児童クラブのさらなる充実について。であった。これらのニーズを今後の計画に反映させていくことが重要である。

3. 平成24年度行政評価に関する調査

- (1) 平成24年度の事務事業評価に関する調査を実施した結果、事業に関する担当課との事業評価に若干の相違はみられたが、各担当課ともに次世代育成支援に関する事業は、しっかりと取り組まれており、今後のさらなる発展が期待できると考える。

4. ワークライフバランスに関する講演会

- (1) ワークライフバランスの普及・啓発のために、当団体主催で講演会を開催したが、残念ながら商工会議所を通じた企業との連携は図れなかった。今後は、さらなる普及・啓発のために行政主催でワークライフバランスの講演会や研修などの事業を実施していくことが重要である。

仕事と生活の調和の実現に向けた取組の推進が重要

ワーク ライフ バランス
仕事と生活の調和の実現に向けて

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

御意見はこちら サイトマップ

仕事と生活の調和とは

政府の取組

地域の取組

企業の取組

民間団体の取組

海外の取組

ひとつ「働き方」を変えてみよう!
カエル! ジャパン
Change! JPN

ワーク・ライフ・バランス
仕事と生活の調和レポート2013を公開しました!
～その結果、本当に必要?
上司と部下で迷える働き方改革～

カエル! ジャパンについて

シンボルマークのダウンロード

「カエル! ジャパン」
キャンペーンに参加しよう!

「カエル! ジャパン通信」

ワーク・ライフ・バランスに
関するメールマガジンは
こちらから!

トピックス

一言へ

*内閣府ホームページより

V. 施策の方向性

今回の調査結果及び意見交換会から、私たちNPO法人21世紀の子育てを考える会・鈴鹿では、次世代育成支援・子育て支援について、3つの提言をし、施策についてその方向性を示すこととした。

1. 病後児保育のさらなる充実

今回のアンケート調査で最もニーズが多かった「病後児保育」のさらなる充実が必要と思われる。

仕事と子育てが両立しやすい鈴鹿市にするためには、病児・病後児保育の整備は重要である。しかし、現状では、鈴鹿市内には病後児保育が白子地区に1カ所しかなく、遠方の保護者からは不便との声がある。保育所併設型の病後児保育を整備してほしいといった声もある。当事者の声を反映し、全国での先進事例などを参考にしながら、鈴鹿市における病後児保育のさらなる充実を図ることが大切である。

2. 土曜・休日保育など保育（学童保育含）のさらなる充実

今回のアンケート調査でニーズが多かった「土曜・休日保育など保育（学童保育含）」のさらなる充実が必要と思われる。

多様化する就業形態の中で仕事と子育てを両立するためには、土曜・休日保育など多様な保育が必要である。また、学童保育においては、夏休みなどの長期休暇の場合の入園や保育料について、改善してほしいとの声がある。当事者の声を反映し、鈴鹿市における休日保育のさらなる充実を図ることが重要である。

3. 次世代育成支援・ワークライフバランスに関する啓発活動

次世代育成支援・ワークライフバランスに関する広報活動や講演・研修など啓発活動を提案します。

次世代育成支援・ワークライフバランスを社会全体の取り組みとするためには、様々な主体が連携し協働しなければ実現は不可能である。特に、働きながら子育てをする環境を整えるためには、企業への啓発・広報活動は重要である。今後は、商工会議所と連携したさまざまな広報活動やワークライフバランスに関連した経営者に対する研修などさまざまな事業の展開が急務である。



問14 子どもの病気など何かあったときに休みは取りやすいですか。

- 1 取りやすい
- 2 取りにくい

問15 育児をしながら働くのに職場の制度・環境は整っていると思いますか。

- 1 思う
- 2 あまり思わない
- 3 思わない
- 4 わからない



問16 あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度について、最も近いものを1つ選んでください。

(1) あなたの「理想」はどれですか、最も近いものを一つ選んでください。

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先

(2) あなたの「現実(現状)」はどれですか、最も近いものを一つ選んでください。

- 1 「仕事」を優先
- 2 「家庭生活」を優先
- 3 「個人の生活」を優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」も「家庭生活」も「個人の生活」も全て優先



問17 次のそれぞれの時間は十分取れていますか、あてはまるところに○をしてください。

	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	全く取れていない
仕事のための時間				
家庭生活のための時間				
地域活動に参加する時間				
学習・趣味などの時間				
休養のための時間				
睡眠のための時間				



問18 ワークライフバランス(仕事と生活の調和)という言葉を知っていましたか。

- 1 よく知っていた
- 2 大体知っていた
- 3 あまり知らなかった
- 4 全く知らなかった

問19 子育てに関する悩み、あったらいいなと思う事業(サービス)など、ご意見をお聞かせ下さい。

(自由記述)

ご協力ありがとうございました。



<お問い合わせ先>

NPO法人21世紀の子育てを考える会 館座

TEL: 090-1415-3749

Email: kosodate21suzuka@hotmail.com



問12 次のそれぞれの時間は十分取れていますか。あてはまるところに○をしてください。

	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	全く取れていない
仕事のための時間				
家庭生活のための時間				
地域活動に参加する時間				
学習・趣味などの時間				
休養のための時間				
睡眠のための時間				

問13 ワークライフバランス（仕事と生活の調和）という言葉を知っていましたか。

- 1 よく知っていた 2 大体知っていた 3 あまり知らなかった
4 全く知らなかった

（問14～19までは利用されている学童保育所（放課後児童クラブ）についての質問です）

問14 学童保育所を利用している子どもの学年（あてはまるもの全てに○）

- 1 1年生 2 2年生 3 3年生
4 4年生 5 5年生 6 6年生



問15 学童保育所の保育時間についてどう思われますか。

- 1 短い（もう少し長くしてほしい） → 具体的に何時までですか？（ 時まで）
2 ちょうどよい
3 わからない



問16 学童保育所の日曜日開設についてどう思われますか。

- 1 開設されれば日曜日も利用したい
2 日曜日は開設されても利用しない
3 どちらとも言えない

問17 学童保育所の料金についてどう思われますか。

- 1 高い
2 適正
3 安い
4 わからない



問18 学童保育所の指導員についてどう思われていますか。

- 1 とても良い
2 良い
3 直してほしいところがある
4 特にない

※良いところ、直してほしいところがあれば具体的に書きください。

→ {

}

問19 学童保育所の運営についての会則を知っていますか。

- 1 理解している
2 あまり理解していない
3 理解していない
4 わからない

問20 学童保育所について、また、子育てに関する悩み、あったらいいと思う事業（サービス）など、ご意見をお聞かせください。

（自由記述）



ご協力ありがとうございました。



＜お問い合わせ先＞

NPO法人21世紀の子育てを考える会 鈴鹿

TEL: 090-1415-3749

Email: kosodate21suzuka@hotmail.com

